STOP! 食ロス
事業者

株式会社 学研スタディエ

埼玉県さいたま市見沼区東大宮5丁目32-10　☎048-680-5213

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
8 働きがいも経済成長も
13 気候変動に具体的な対策を
16 平和と公正をすべての人に
17 パートナーシップで目標を達成しよう

さまざまなワークショップを通して子どもの“ミライ思考”を育む

当社は、「自分たちの流した汗の分だけ笑顔が広がる」をポリシーとして掲げ、埼玉県、宮城県、福島県で学習塾を運営しているほか、台湾、ベトナム、アメリカなど、海外でも子どもの学びを支援しています。このほか、すべての会話を英語で行う幼児保育事業を埼玉県3拠点で展開しています。

一方、当社は埼玉県のSDGsパートナー企業となっており、ワークショップや啓蒙活動、フードドライブなど多彩な観点から積極的にSDGsに取り組んでいます。こうした取組を通して、子どもたちそれぞれが思い描くミライに向けて、自分が興味を持ったことについて学び、自らが考えて行動できるような「ミライ思考」を育んでいます。

学研スタディエHPへ

事業紹介

当社が大切にしているのが、SDGsの考え方を育てるESD（Education for Sustainable Development）です。これは、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育のことです。どうしたら、塾生たちが好きなことを見つけ、それに継続して取り組めるのか。そのきっかけをつくるのが当社の使命であると考えています。このESDの要となっているのが、「ミライ思考」と題したワークショップです。

「ミライ思考」をテーマにしたワークショップ

春休みや夏休みなど長期の休みを活用して主に小学生を対象としたワークショップを開催しています。

「木製品デザインコンテスト」は山や森の豊かさを守るために、林業や木材を扱う人々の話を聞いた後、木材を活用した木製品のデザインを子どもたち自身が考案。優秀作品は商品化し、販売まで行いました。

「作文コンクール」では、漁業や市場で働く人々に学び、魚食文化を継続させるためのアイデアを作文にしました。優秀賞となった「魚市場で目利きを学ぶ」「親子で魚料理教室」は、実際に漁港で取り組まれています。

このほか、農家の人の話を聞いて、栽培したトウモロコシを食べたり、飲料メーカーの方からペットボトルの3R（リデュース、リユース、リサイクル）を学んだ後にキャップでオリジナルマグネットを作ったりと内容はさまざまです。「学ぶ」ことに興味関心を持ってもらえる入口となるよう、多彩なプログラムを用意しています。

食品ロス削減のために

教育の観点から「フードドライブ」を実施

**全校舎の子どもたちが協力して
フードドライブに取り組んでいます。**

フードドライブはESDの一環として子どもたちに食品ロスへの興味関心を高めてもらおうと計画し、2022年10月、世界の食料問題を考える国連の「世界食料デー」月間に合わせて初めて実施しました。各校舎に回収ボックスの段ボールを用意し、子どもたちに可愛くデコレーションしてもらったのも作戦の１つです。子どもたちがフードドライブについて興味関心を持つきっかけになってもらえたらという思いからでした。

フードドライブには、レトルト食品やお米などさまざまな品が集まりました。家の人と何を持っていこうか話し合うなど、活動の輪は広がっていきました。それ以来、年１回のペースで実施。集まった食品は、子ども食堂やフードバントリーなどの団体に寄付しています。

また、フードドライブの実施前には、フードドライブについて考えてもらうきっかけになればと、食品ロスについてまとめた冊子「食を知り、考える」を塾生全員に配布。実施後にはフードドライブの標語コンクールを開くなどして、子どもたちの意識を高める取組も並行して行っています。

株式会社学研スタディエからのメッセージ

もし、世界の食料問題を解決する具体策が見つかって、それが実現したら世界が大きく変わるはずです。そんな解決策を発見できるような子どもたちが出てきてほしく、どんな分野でもいいから「学ぶ」ことに興味関心を持つ子どもがたくさん増えてほしいですよね。その中から、社会課題とは何かを知り、どうしたらクリアできるかを自分自身で考えてチャレンジすることを楽しむ。そんな「ミライ思考」を持った子どもたちを当社は育てていきたい。それこそが、ESDであり、子どもたちの生きる糧、力になるはずです。

これからも、「教育」という切り口で、フードドライブをはじめとするSDGsに積極的に取り組んでいきたいと考えています。